

船舶事故等調査報告書

平成21年11月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第216号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成21年6月27日 19時50分ごろ	
発生場所	愛知県田原市赤羽根港東防波堤灯台から真方位139° 6.6km付近 （概位 北緯34° 33.3′ 東経137° 14.0′）	
事故等調査の経過	平成21年8月5日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 ^{きよくわ}旭和丸、299トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 131924、有限会社戎海運</p> <p>乗組員等に関する情報 機関長、五級海技士（機関）（機関限定）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 主機1、5及び6番シリンダのピストンとシリンダライナ焼付き、クランク歯車冷やし嵌め部ずれ、プッシュロッド曲損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、機関長ほか3人が乗り組み、平成21年6月27日14時00分、名古屋港を空船で、茨城県鹿島港に向けて出港した。18時00分ごろ、主機回転数を約710rpmとし、速力約10.5ノットで航行中、主機で異音が発生したことから、停止して点検したが、異常箇所の発見には至らず、18時30分ごろ、主機回転数を約410rpm、速力約7.0ノットに減速して航行を続けていたところ、19時10分ごろ、クラッチが突然離脱して主機が過回転に陥ったが、しばらく運転が続いて停止した。以後の予定を変更して名古屋港に戻ることとし、19時30分ごろ、主機を始動して航行を再開したものの、19時50分ごろ、主機が再び停止し、以後再始動できなくなった。</p> <p>本船は、自力航行を断念し、タグボートにえい航され、名古屋港に戻った。</p> <p>主機を開放点検したところ、ピストンとシリンダライナ焼付き等の損傷が判明した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1m、うねり 約1m</p>	
その他の事項	本船は、平成元年9月2日進水した液体化学薬品ばら積船であったが、修理に4～5ヶ月を要することから、修理を行わず、海外売船することとなった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>主機は、過回転状態で運転がしばらく続けられたため、各部が損傷したものと考えられる。 クラッチが、航行中、突然離脱した理由は明らかにすることができなかった。</p>

	<p>主機は、クラッチが突然離脱して負荷が急減した際、ガバナと燃料噴射ポンプ間のリンク機構が一時的に固着したため、過回転状態で運転がしばらく続けられた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が赤羽根港沖を航行中、クラッチが突然離脱して主機が過回転状態となった際、ガバナと燃料噴射ポンプ間のリンク機構が一時的に固着したため、過回転のまま主機の運転が続けられ、ピストン等が焼き付いたことにより発生した可能性があると考えられる。</p>